

「ハ」と「ガ」の使い分けの問題について

—ロシア語母語話者の場合—

Usage of Japanese Particles “wa” and “ga” —A Report on Russian Students Learning Japanese Language at their University—

ペトロヴァ・ユリア*

JULIA, Petrova

Russian students learning Japanese at their university often find it difficult to understand when they should use Japanese topic marking particle "wa" and Japanese subject marking particle "ga". In this article I introduce a very simple and useful but not perfect possible solution for that.

1. はじめに

ロシア人大学生での日本語を学習している人達にとって難しいと感じるのは「ハ」と「ガ」の使い分けである。

どんなときに「ハ」を使い、どんなときに「ガ」を使うのか、又、文には主題が必要かそれとも必ずしも必要ではないのか。これらは初級の学生にとって困難な問題である。

「日本語の助詞」についてのひととおりの説明はロシア語でも読むことができる。しかし、「ハ」と「ガ」を比べては書いていない。また、「ハ」と「ガ」の使い分けについてロシア語で書かれた論文は、私が調べた限りでは見当たらなかった。つまり、多くのロシア人の日本語学習者は、大学等の学校で習った教科書にある例文などをもとに、それぞれ自分でなんとなく「ハ」と「ガ」を使い分けているに過ぎない。

そこで本稿では、初級者向けの「ハ」と「ガ」の使い分けの簡単なルールを用意し、日本語を学習しているロシア人大学生に、文の空欄に「ハ」か「ガ」を選んで入れるというテストを実施してみた。大学生に紹介した単純なこのルールが案外実用に耐えるものであったことがわかったので、本稿ではそれについて報告する。

実験で用いた「ハ」と「ガ」の使い分けのルールは、日本での先行研究をもとにペトロヴァと池田が考案したものである。

* 新潟大学国際センター研究生・県費留学生

2. 先行研究

2.1. ロシアでの先行研究

2.1.1. クン (2006)

「ハ」と「ガ」は、動作主・属性の持ち主を表す格助詞と説明している。「ハ」を使う場合は述語の意味を強調し、否定文であれば「ハ」を使う。一方「ガ」を使う場合は動作主・属性の持ち主を強調する。強調するとは「その情報が他の情報より大切である、あるいは大切なものとして示す」という意味であるとする。

また、以下の文と説明は「ハ」と「ガ」の使い分けの例としてクンが紹介しているものである。

(1) この山は高いです。

この文では、「この山の高さ」という属性が強調されていると言える。つまり、他の山よりこの山の方が高いということを伝えている。

(2) 雪が降る。

ガを用いているので、「降る」ではなく「雪」を強調していることになる。

「降る」のは「雨」でも「霰」でもなく「雪」だと伝える文である。

(3) 彼が先生です。

他の人ではない「彼」が先生だと伝える文である。

2.1.2. シクロフスキイ (2004)

「ハ」「ガ」「トハ」「モ」は主語を指示する格助詞である。「ハ」「ガ」「トハ」「モ」の違いについて考える。「ハ」を使う場合は、主語はみんなが知っていることを表す。「ガ」を使う場合は、主語を意味的に強調する。「トハ」を使う場合は、述語は主語の性質についての説明である。「モ」を使う場合、他の助詞を使用する場合の主語と比べて、モをつけた主語を強調する。

2.1.3. ダニロフ (2004)

「ハ」と「ガ」の使い分けを、テーマ、レーマというアイデアで説明している。簡単に言うとテーマとはトピックで旧情報である。それに対してレーマは新情報である。「ハ」はテーマの格助詞で、「ガ」はレーマの格助詞である。

(4) 彼は学生だ。

という文では、「彼は」はテーマである。テーマとは聞き手と話し手が知っている情報(すでに話し手と聞き手の両者が持っている情報という意味では旧情報といえる)である。一方「学生だ」はレーマである。レーマとは聞き手にとって、初めて出てくる情報(話し手は持っているが聞き手は持っていない情報という意味では新情報といえる)である。

また、人や物の性質について説明する時、説明される人やものは「ハ」を伴って出

現する。たとえば、聞き手に新しい人を紹介する時に、「彼は」などとその人を指し、述語としてその人の名前、出身、就業、年齢などの情報を提示する。誰を紹介するのは、話し手と同じ場にいる聞き手にはすでに分かっている（旧情報）はずである。話し手・聞き手の双方が持っている情報「彼」に「ハ」を付けて、「彼は」として表現するということである。

一方、

(5) 彼が学生だ。

という文では、先ほどとは状況が異なる。何人かの人間が目の前にいて、その中の誰かが学生であることを示すような状況である。何人かの候補者の中から学生という属性を持つ人間を一人選ぶという状況のとき、例のように「彼が」と表現する。また、述部（主語ではない部分）に疑問詞「だれ」、「何」、「どこ」、「いつ」、「どれ」、「いくら」、「何の本」、「誰のカメラ」、「どんな人」などがある質問の文では、いつも主語に「ハ」をつけて表現する。

(6) 「あの人は誰ですか。」

「あの人は東京大学の山田先生です。」

(7) 「お誕生日はいつですか。」

「誕生日は4月14日です。」

上の質問に対する答えの文では、テーマ（「あの人」「(お)誕生日」）に「ハ」をつける。

主語が疑問詞「どれ」、「どちら」、「どの人」、「どちらの傘」などである質問の文では、いつも主語に「ガ」をつける。

(8) 「どの人が田中さんですか。」（＝田中さんは、どの人ですか）

「あの眼鏡をかけた人が田中さんです。」（＝田中さんは、あの眼鏡をかけた人です）

(9) 「どちらが京都市の電車ですか。」（＝東京行きの電車はどちらですか）

「こちらです。」

上の質問に対する答えの文では、レーマに「ガ」をつける。

2. 2. 日本での先行研究

日本国内には「ハ」と「ガ」の先行研究は非常にたくさんあり、代表的なものだけでもすべてを取り上げることはできない。本稿では先行研究をまとめて整理し、なおかつ新しい見方を紹介している野田（1996）のみを取り上げることにする。

2. 2. 1. 野田尚史（1996）

野田（1996）では提案された「ハ」と「ガ」の使い分けの原理のうち重要と思われるものを整理すると、大きく、次1）から5）の5つにまとめられている。

1) 新情報と旧情報の原理—新情報には「ガ」、旧情報には「ハ」

野田（1996）では「新情報と旧情報の原理」と呼ぶのは、主格名詞が、話の現場や文脈

とどのような関係をもっているかによって「ハ」と「ガ」の使い分けを説明するものである。つまり、主格名詞がまだ知られていない新情報のときはその主格に「ガ」がつき、主格名詞がすでに知られている旧情報のときはその主格に「ハ」がつくという原理である。

(10) 私は吉田と申します。社長にお取次をお願いします。

(11) 私が先日履歴書を差し上げました吉田でございます。

2) 現象文と判断文の原理—現象文には「ガ」、判断文には「ハ」

「現象文と判断文の原理」と呼ぶのは、モダリチの面からの文の分類によって「ハ」と「ガ」の使い分けを説明するものである。つまり、現象文の主格に「ガ」がつき、判断文の主格に「ハ」がつくという原理である。次の(12)と(13)の例はそれぞれ現象文と判断文である。

(12) 雨が降っている。

(13) それは梅だ。

3) 文と節の原理—文末までかかる時「ハ」、節の中には「ガ」

「文と節の原理」と呼ぶのは、主格がどこまでかかるかによって「ハ」と「ガ」の使い分けを説明するものである。つまり、文末までかかるときは「ハ」が使われ、節の中だけにしかかからないときは「ガ」がつかわれるという原理である。

(14) 鳥が飛ぶ時には空気が動く。

(15) 鳥は飛ぶときには羽をこんな風にする。

4) 対比と排他 of 原理—対比のときには「ハ」、排他 of のときには「ハ」か「ガ」

「対比と排他 of 原理」と呼ぶのは、主格名詞が、その文の中にない同類の名詞との関係でどのような意味をもつかによって、「ハ」と「ガ」の使い分けを説明するものである。つまり、同類の名詞にたいして対比的な意味をもつときは「ハ」が使われ、排他的な意味をもつときは「ガ」が使われるという原理である。

(16) 雨は降っていますが、雪は降っていません。(対比的)

(17) 太郎が学生です。(≡他の人は学生ではありません：排他的)

5) 措定と指定 of 原理—措定には「ハ」、指定には「ガ」

「措定と指定 of 原理」と呼ぶのは主格名詞と述語の意味的な関係によって「ハ」と「ガ」の使い分けを説明するものである。つまり、述語が主格名詞の性質を表す「措定」のときには「ハ」だけが使われ、主格名詞と述語名詞が同じものであることを表す「指定」のときは「ハ」か「ガ」が使われるという原理である。

(18) いなごは害虫です。

(19) 君の帽子はどれです？

前の(18)のような文は、「いなご」について「害虫だ」と解説する措定の文なので、次の(20)のような「ガ」の文に変えることはできない。それに対して、前の(19)のような文「君の帽子」と「どれ」の一致を認定する指定 of 文なので、その次の(21)のような「ガ」の文に変えることができるというのである。

(20) *害虫がいなごです。

(21) どれが君の帽子です？

以上の5つの原理を主題という統一した視点から捉えなおすことにする。そうすると次のAからEの5つの原理として再編されることになる。

A) 主題を持てるかどうかの原理 (上記3) にあたる。)

(22) 八木がよくホームランを打つことは、みんな知っている。

B) 主題をもつかどうかの原理 (上記2) にあたる。)

(23) 富士山が見えるよ。

C) 何を主題にするかの原理 (上記1) にあたる。)

(24) そのあと私はカラオケボックスに行きました。

D) 主題を明示するかどうかの原理 (上記5) にあたる。)

(25) 私が責任者 (であること)

主題

責任者は私です。

私が責任者です。

E) どれとりたてるかの原理 (上記4) にあたる。)

(26) 私は魚は好きですが、肉は嫌いです。

(27) 1月より2月のほうが寒い。

ここでは、「ハ」と「ガ」の使い分けが決まる段階を大きく5つにわけるとして、それぞれの段階で、たがいに違う5つの原理によって、「ハ」と「ガ」の使い分けが決まる。

3. 調査

「はじめに」でも書いたが、「ハ」と「ガ」の使い分けは、学習者が日本語の文法を学習する過程で、習得が困難な問題の一つだと考えられる。これは「ハ」「ガ」を学習者が学習する際にその基本となる使い方を体系的に学んでいない、また教授者が導入する際に、その基本となる使い方を体系的に指導できずにいることが原因だと考えられる。

ここでは、初級者向けの「ハ」と「ガ」の使い分けの体系的かつ簡単なルール（以下「ルール」と略して示す）を日本での先行研究をもとにペトロヴァ・池田が以下のように作成した。

まずルールは基本と例外の二つの部分に分かれる。例外はその内容からさらに①と②の2つに分かれる。つまり、今回の実験で我々が示したルールは結局3つになる。

・基本ルール：

名詞述語文・形容詞述語文には「ハ」、動詞述語文には「ガ」が必要。

名詞述語文・形容詞述語文と動詞述語文の例をあげる。

(28) 彼は弁護士です。

(29) この映画は面白いです。

(30) 両親が新潟へ行きます。

「ハ」と「ガ」の使い分けの問題について

(31) 彼女がNTTで働いています。

・例外ルール①：

可能（能力）、必要、存在（所属）という意味がある形容詞述語文では、能力を持つ人には「ハ」その対象には「ガ」を使う。

例：必要、好き、嫌い、上手、下手、得意などである。

以下に例をあげる。

(32) 私は寿司が好きです。

この文は、ある人間の「好き」という感情について表現している。この「好き」という感情の主体は「私」である。つまり「私」というトピック（主題）についての情報を示している文だと言える。また、一方で、「好き」という感情を何に向けるか（対象）が「寿司が」によって示されている。

言い換えれば、「私」というトピックに対して、「寿司が好きである」という情報を伝えている文である。

(33) 友達は英語が分かる。

この文は、ある人間の「分かる」という能力について表現している。この「分かる」という能力の主体は「友達」である。つまり「友達」というトピック（主題）についての情報を示している文だと言える。また、一方で、「分かる」という能力を何に向けるか（対象）が「英語が」によって示されている。

言い換えれば、「友達」というトピックに対して、「英語が分かる」という情報を伝えている文だといえる。

2例とも、「私は背が低い」と同じで「私というトピックについて、背が低いという情報を提示します」と、トピックが持つ性質（属性）を示しているに過ぎない。

・例外ルール②：

対比や比較という構文も例外的なの「ハ」と「ガ」の使い分けが必要。これら：

一対比がある文

対比がある文であれば、「ハ」を使っている。

一比較がある文

比較がある文であれば、「ガ」を使っている。

最初は対比の例をあげる。

(34) 私はバナナは好きですが、リンゴはあまり好きではありません。

私はバナナが好きです。

私はリンゴがあまり好きではありません。

バナナ>好き

りんご>好きではない

好みという性質について、バナナとリンゴを対比している。

その結果、

私はバナナ**は**好きですが、リンゴ**は**あまり好きではありません。

(35) 山田さん**は**りんごを食べたが、高橋さん**は**食べなかった。

山田さん**は**りんごを食べた。

高橋さんは〔りんごを〕食べなかった。〔 〕－省略の印

山田>食べた

高橋>食べなかった

食べるという行為について、山田さんと高橋さんを対比している。

その結果、

山田さん**は**りんごを食べたが、高橋さん**は**食べなかった。

次に比較の例を挙げる。

(36) バスより電車の**ほう**が速いです。

バスは速いです。

電車は速いです。

バス>速い

電車>速い

速さについて、バスと電車を比較している。

その結果、

バスより電車の**ほう**が速いです。

(37) 納豆**が**一番おいしい。

納豆についてだけ述べるなら、「納豆はおいしい」というのが普通である。

同じ美味しいという性質を持つ食べ物をいくつか並べて、

「豆腐はおいしい」

「寿司はおいしい」

「ラーメンはおいしい」

「…はおいしい」

があり、その中で比較した結果「納豆」の性質が一番と判断された結果であることを上の例文は示しているといえる。

以上のルールを整理すると以下の表のようになる。

「ハ」と「ガ」の使い分けの問題について

	名詞 / 形容詞	動詞
1. 基本		
「ハ」と「ガ」の使い分けのルール	<p>X は N / A d j です。</p> <p>X = N</p> <p>X ≠ A d j</p> <p>例えば：</p> <p>彼は弁護士です。</p> <p>この映画は面白いです。</p>	<p>X が V ます。</p> <p>例えば：</p> <p>両親が新潟へ行きます。</p> <p>彼女がN T Tで働いています。</p> <p>ただし、疑問文であれば、</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">X は V ますか。</p> <p>例えば：</p> <p>喫茶店はどこにありますか。</p> <p>田中さんはどこに住んでいますか。</p>
2. 例外		
① 「ハ」と「ガ」使い分けのルール {人} (ニ) ハ + 対象 ガ + 動詞 / 形容詞	<p>X ハ Y ガ N です。</p> <p>私 は 母 が 医者です。</p> <p>X Y N</p> <p>私の母は医者です。</p> <p>XハYがA d j です。</p> <p>例えば：</p> <p>兄は背が高いです。</p> <p>妹は漢字が上手です。</p> <p>太郎は絵がうまいです。</p>	<p>X ハ Y ヲ V ます。</p> <p>例えば：</p> <p>子供はジュースを飲みます。</p> <p>ただし Vは可能(能力) 必要、存在(所属) という意味があるとき、</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">X ハ Y ガ V ます。</p> <p>例えば：</p> <p>私はお金が必要です。</p> <p>妹は英語が分かります。</p>
②	<p>1. 対比がある文—ハ</p> <p>対比がある文であれば、ハを使っています。</p> <p>例えば：</p> <p>バナナは好きですが、リンゴはあまり好きではありません。</p> <p>山田さんは来たが、木村さんは来なかった。</p> <p>2. 比較 がある文—ガ</p> <p>比較、程度がある文であれば、ガを使っています。</p> <p>例えば：</p> <p>バスより電車のほうが速いです。</p> <p>アメリカの車より日本の車のほうが便利です。</p>	

以上に示したルールが実用に耐えるかどうかをテストするために、日本語を学習しているロシア人大学生にアンケートテストを実施した。今回のアンケートテストの調査対象はハバロフスク極東国立人文大学で日本語を学習している2年生と3年生の学生である。なお、学生の日本語学習歴は概ね以下のとおりである。

2年生：『みんなの日本語初級Ⅰ』を終わって、『みんなの日本語初級Ⅱ』に入ったところ

学 期	週	総時間数
前 期	15	120時間（8コマ/週）
後 期	20	140時間（7コマ/週）
計	35	260時間

3年生：『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』を終わって、『日本語中級で学ぶ』に入ったところ

学 期	週	総時間数
前 期	15	150時間（10コマ/週）
後 期	20	170時間（8か9コマ/週）
計	35	320時間

調査対象の学習者の日本語力は、学習歴から考えて、まったくの初心者ではないが初級、あるいは初級から中級に入りかけているくらいと考えてよい。

このテストの実施の目的は、ある程度日本語の文法を学習しているが、総合的には初級の域を出ないような学生にとって、我々が提案するルールがどの程度使えるかを確認することである。そのため、テストは2回実施した。1回目はルールを説明しないで、2回目はルールを説明した後に実施した。テストを聞いたことで「ハ」と「ガ」の使い分けの学習が進むかどうかを見るために、テストは2回とも同じ学生に対して行った。

3. 1. 1回目のテスト結果

一回目のテストは10月に実施した。以下に2年生と3年生両方が同じ間違いをしたものをあげる。番号はアンケートテスト中の番号。

動詞文では基本的に「ガ」を使うはずだが、「ハ」を使っていた。例えば、

(38) 知らない人は私に話しかけてきた。

(39) たくさんの人は花火を見に長岡に来ました。

日本語を勉強し始めた時、例文の人を表す名詞の後にはまず「ハ」が付いている。おそらくそれでみんな同じ間違いをしたと考えられる。

可能（能力）、好み、必要という意味の形容詞、動詞がある場合、学生が対象に「ハ」をつける。

(40) 日本の映画は好きな人が増えています。

(41) クラスには日本語で文章を書くのは得意な学生は少ないです。

「ハ」と「ガ」の使い分けの問題について

最初に学習した形容詞文の基本形「XはYだ」という構文がおそらく頭にあり、無条件に「ハ」を選んだものと考えられる。

(42) あのスーパーが水曜日は休みです。

情報の重要度を理解せずに「ハ」と「ガ」を選択してしまった例である。

水曜日は、あのスーパーが休みです。(重要な情報=あのスーパーです)

あのスーパーは、水曜日が休みです。(重要な情報=水曜日です)

(43) 「あなたがた3人のなかでだれが一番若いですか。」

「もちろん、わたしは一番わかいです。」

(44) 「だれか加藤さんの電話番号を知りませんか。」

「たぶん、山田さんは知っています。」

3. 2. 2回目のテスト結果

11月に2回目のテストを実施した。2年生と3年生のどちらも、こちらで用意したロシア語によるルールの説明を聞いて、テストをした。以下に半数以上の学生が間違っただけをあげて、その特徴を整理する。

(45) その荷物がいつ送りますか。

多くの学生が「ハ」ではなく「ガ」を選んだ。おそらくルール：基本に基づき、動詞文に対して自動的に「ガ」を選んだと考えられる。

「Xを送る」の「Xを」を主題にするときに「Xは」となるが、「Xが」にはならない。

(46) 山田さん() 魚を食べたが、高山さん() 食べなかった。

この文は山田さんの行動と高山さんの行動を対比して述べているので、どちらにも「ハ」が入る。しかし、学生の答えは次の三パターンに分かれた。

① 両方に「ハ」を入れる。ルールの例外に注意を払わず、基本ルールのみを利用して、動詞述語文ということだけを考えて「ガ」を選んだ。

② 山田さんのあとに「ハ」を入れ、高山さんのあとに「ガ」を入れる。

③ 山田さんのあとに「ガ」を入れ、高山さんのあとに「ハ」を入れる。

②、③の例文では学生たちがルールの中で迷って、間違っただけと考えられる。

(47) ケーキ() あまり好きじゃありませんが、チョコレート() 大好きです。

これも学生の答えが三つに分かれた。

① ケーキとチョコレート両方のあとに「ガ」を入れる。

この文は対比の文なのでどちらも「ハ」を入れるべきところを、「Xが好き(大好き)」という「好き」の基本的な使い方(ルール例外②)にならって、「ガ」を入れてしまった。

② ケーキのあとに「ハ」を入れ、チョコレートのあとに「ガ」を入れる。

好きは形容詞なので「ハ」を選んだ。大好きというのは好みをあらわす形容詞なので、普通にこの形容詞に「ガ」をつける。

③ ケーキのあとに「ガ」、チョコレートのあとに「ハ」を入れる。

- (48) 毎年8月に全国からたくさんの人（ ）祭りを見に東京にやってくる。
この文は動詞文なので「ガ」を使わなければならないが、12人中4人しか「ガ」を選ばなかった。
- (49) あのハンサムな男の人（ ）私のクラスメートです。
この文では私は「あのハンサムな男の人」を意味的に強調したいなら「ガ」、単純な紹介文なら「ハ」のはずだが、学生たちは全員後者の名詞文と判断して、「ハ」を選んだ。
- (50) 明日東京からリーさん（ ）来ます。
動詞述語文なので「ガ」を選ぶべきところで「ハ」を選んでしまっている。おそらく最初に習った日本語が「Xは…です。」や「Xは…します。」だったので、文を完成させるのにまず「ハ」を用いたと考えられる。

4. 考察

1回と2回のテストの結果を調べて、2年生と3年生両方がだいたい同じ間違いをしたという結論に達した。二つの主な間違いを指摘することができる。

その1

最初に習ってなんとなく覚えた、いってみれば個人によって異なる「ハ」と「ガ」の使い分けがテストに大きく影響を与えたと思われる。その結果、学生たちは私たちが紹介したルールに戸惑っていた。

その2

私たちが作成したルールは、大きく分けて基本と例外の二つの部分からなり、どちらのルールを優先させるかに迷いが見られた。テストの例文の中には基本と例外のどちらのルールを適用すればよいのか迷う要素が時々混じっており、学生たちはどちらを優先させるのかわからなくて、結局正しくない答えを選んでしまった。たとえば、私はバナナは好きですが、リンゴはあまり好きではありません。

この例文には二つの例外の「ハ」と「ガ」の使い分けのルールが適用可能である。

- ・形容詞述語文：基本
- ・「好み」という意味がある形容詞述語文：例外①
- ・対比がある文：例外②

この例文で多くの学生が間違った一番の理由は、例外の「ハ」と「ガ」の使い分けの複雑さだと思う。

1回目正答率	55/71 (77%)
2回目正答率	36/45 (80%)

5. まとめ

日本語を学習しているロシア人大学生にとって難しいと感じるのは「ハ」と「ガ」の使い分けである。しかし、ロシア語で書かれたハとガに関する詳しい(良い)参考書は少ない。それで、日本での先行研究をもとに作成した初級者向けの「ハ」と「ガ」の使い分けの簡単なルールを導入し、実際に学生にテストをしてもらった結果、かなりの確率で、「ハ」と「ガ」が使い分けられることがわかった。最後にもう一度「ハ」と「ガ」の使い分けのルールを簡単に整理しておく。

基本	動詞述語文：動作主体+ガ 名詞・形容詞述語文：属性主体+ハ	
例外	意味的な例外 述語が動詞でありながら、動きを意味しない(静的な事態)場合。 たとえば、「好み・能力・必要」という意味を持つ場合。 彼ハリンゴを好む。 彼女ハ日本語ガ話せる。 私達ハお金ガ要る。	構文的な例外 対比・比較の構文を持つ場合。 対比 リンゴハ <u>好き</u> だが、バナナハ <u>嫌い</u> 。 比較 バス <u>より</u> 電車 <u>の方</u> <u>ガ</u> 速いです。 属性主体以外に必要な要素がある場合。 (彼ハ) リンゴ <u>ガ</u> 好き。 (彼女ハ) 背 <u>ガ</u> 高い。

参考文献

寺村秀夫 (1985) 「はとが」『日本語文法セルフ・マスターシリーズ1』くろしお出版

寺村秀夫 (1987) 「格助詞」『日本語文法セルフ・マスターシリーズ3』くろしお出版

野田尚史 (1996) 「はとが」『新日本語文法選書1』くろしお出版

Данилов, А.Ю. Японский язык. Именительный тематический и именительный рематический падежи: [учеб. пособие] / А.Ю. Данилов. - М.: Восток-Запад, 2004. - 176 с.

(ダニロフ・アンドレイ (2004) 『テーマとレーマの格助詞』 モスクワ出版)

Кун, О.Н. Элементарная грамматика японского языка / О.Н. Кун.- изд.2- е. - М.: АСТ:Восток- Запад, 2006. - 77[3] с.

(クーン・オレグ (2006) 『日本語の文法』 モスクワ出版)

Лаврентьев, Б.П. Практическая грамматика японского языка / Б.П. Лаврентьев-3- еизд., испр.- М.; Живой язык, 2002.-352 с.

(ラヴレンチェフ・ボルス (2002) 『日本語文法参考書』 現代語出版)

Шкловский, И.Г. Практический синтаксис японского языка. Элементарное предложение / И.Г. Шкловский. - М.: АСТ; Харьков: Торсинг, 2005. -765,[3] с.

(Шкловский・Ириヤ (2004) 『日本語の構文論』 モスクワ出版)

附録 1

10月に実施したテスト

- ()の中に「ハ」か「ガ」を入れなさい。
1. このタオル()きれいです。
 2. ここにあったリンゴは田中さん()食べた。
 3. バス料金()また値上げになりました。
 4. この前の日曜日、市民マラソン大会()開かれた。参加者()全部で300人ぐ
らいだったそうだ。
 5. それ()何の本ですか。
 6. その事件()警察()調べています。
 7. 私の趣味()古い時計を集めることです。
 8. バレーボール()一番面白いです。
 9. 私()友達と6月にバスで東京へ行きます。
 10. 誕生日()何月何日ですか。
 11. 兄()背()高いです。
 12. 新幹線の売り場()どこにありますか。
 13. 大学生や大学院生()50人ぐらい来ます。
 14. あなた()誰と旅行しましたか。
 15. 今年の夏()暑いです。
 16. 日本の食べ物で何()一番おいしいですか。
 17. 田中さんと話している人()誰ですか。
 18. 私()魚をよく食べます。
 19. リーさん()発表する予定です。
 20. あのスーパー()水曜日()休みです。
 21. 田中さん()社長になると思います。
 22. このみかん()おいしいです。
 23. 15×15 ()225ですか。
 24. 航空便()船便より高いです。
 25. 「田中さん()どこに住んでいますか。」
「田中さん()本町に住んでいます。」
 26. たくさんの人()花火を見に長岡に来ました。
 27. この電車()新潟駅まで行きますか。
 28. 家の電話番号()524-55-01です。
 29. 私の家()狭いですが、駅から近いです。
 30. ここから富士山()見えます。
 31. 鈴木さん() [Sony] カメラを持っています。
 32. 父()車を入学祝に買ってくれました。

33. 銀行（ ）何時に閉まりますか。
34. 母（ ）ケーキ（ ）好きです。
35. 友達（ ）外国語（ ）できる。
36. 面白い仕事（ ）ほしいです。
37. あなた（ ）コピー機の使い方（ ）わかりますか。
38. 先生の声（ ）聞こえますか。
39. 姉（ ）説明（ ）詳しいです。
40. 私（ ）外国で暮らした経験（ ）ありません。
41. この本（ ）間違い（ ）多いです。
42. 議論（ ）まだ続いている。
43. この人（ ）日本語（ ）上手ですから、心配しないで下さい。
44. 給料（ ）多いか少ないかは、たいしたちがいではない。
45. 私の声（ ）聞こえますか。
46. 太郎さん（ ）子供（ ）3人いる。
47. この仕事をするには多くの人手（ ）要る。
48. 日本の映画（ ）好きな人（ ）ふえています。
49. 私（ ）もっと時間（ ）ほしかった。
50. 彼（ ）大学に行きます。
51. クラスには、日本語で文章を書くの（ ）得意な学生（ ）少ないです。
52. この手紙（ ）いつ来ましたか。
53. 見て。鳥（ ）たくさん飛んで行くよ。
54. 手術（ ）朝9に始まった。
55. 田中さん（ ）来たけど、山田さん（ ）来なかった。
56. 今月（ ）忙しくて、わたし（ ）時間（ ）足りない。
57. 先生「あなた（ ）昨日何時間勉強しましたか。」
学生「3時間ぐらいです。」
58. 山下さんの家（ ）新しくて、とてもきれいです。
59. 知らない人（ ）私に話しかけてきた。
60. 「あなたがた3人のなかでだれ（ ）一番若いですか。」
「もちろん、わたし（ ）一番若いです。」
61. 私（ ）夏休みの間に漢字を300覚えた。
62. 「だれかイーさんの電話番号を知りませんか。」
「たぶん、山田さん（ ）知っています。」
63. 先日先生（ ）いらっしゃった場所にまたお連れします。
64. 公園で子供（ ）遊んでいます。

「ハ」と「ガ」の使い分けの問題について

ジミーさん、お元気ですか。もうすぐ7月ですね。東京（ ）暑いですか。ジミーさん（ ）私たちのうちにホームステイに来てから、もう半年になりますね。冬の北海道（ ）とても寒かったですが、いま（ ）気持ちのいい季節です。

半年前（ ）ジミーさん（ ）日本語学校の学生でしたね。4月からの専門の勉強（ ）どうですか。コンピューターの勉強（ ）おもしろいですか。今の学校に留学生（ ）いますか。

ところで、私も3月に学校を卒業して、4月から（ ）旅行会社に勤めています。旅行会社の仕事（ ）大変ですが、面白いです。毎日5時まで仕事をしますが、その後、火曜日と木曜日には英会話の学校にも通っています。英会話の学校ではいろいろな会社の人（ ）勉強しています。出版社や銀行の人などです。

弟（ ）4月から高校3年生になりました。弟（ ）スポーツ（ ）好きで、去年（ ）毎日、学校で野球をしていました。でも、今年（ ）高校の3年生で大変です。

私も家族も、いま（ ）忙しいですが、8月には、湖へキャンプに行きます。ジミーさんも、一緒にキャンプをしませんか。北海道の夏（ ）涼しいです。

それでは、またご連絡します。どうぞ、お元気で。

木 村 ひろ子

6月28日

ジミー・シミス様

附録2

11月に実施したテスト

()の中に「ハ」と「ガ」を入れなさい。

1. 早く病気()治るといいですね。
2. 私()外国で暮らした経験()ない。
3. その荷物()いつ送りますか。
4. 8時に電車で彼女()病院へ行きます。
5. 映画館()どこにありますか。
6. 手術()朝9時に始まった。
7. 山田さん()リンゴを食べたけど、高山さん()食べなかった。
8. イーさん()とてもきれいな女の人です。
9. 駅で友達を待っていると、30歳ぐらい女の人()話しかけてきた。
10. 東京に住んでいる友達()鈴木さんです。
11. 「きのう久しぶりに高山さんから電話()あった。」
「何か言っていましたか。」「赤ちゃん()生まれたと言っていました。」
12. 毎年8月に全国からたくさんの人()祭りを見に東京にやってくる。
13. あのハンサムな男の人()私のクラスメートです。
14. 昼ごはん()大学の食堂で食べます。
15. ケーキ()あまり好きじゃありませんが、チョコレート()大好きです。
16. あした東京からリーさん()来ます。
17. その新幹線()14番線から出ます。
18. 下の部屋に赤ちゃん()います。
19. となりの部屋()うるさいです。
20. 部屋にきれいな絵()あります。
21. 会社()9時から6時までです。
22. 私()いつもテレビを見ます。
23. 海岸で若い人()サーフィンをする。
24. 10月()台風シーズンでよく雨()降る。
25. ケビン・コスナー()1955年アメリカのカリフォルニアで生まれた。
26. 小鳥の声()きれいで、かわいかったです。
27. 昔()結婚するの()よくないことだと考える人()多かった。
28. 最近、テレビのお見合い番組()人気()ある。
29. あの子()愛情()必要だ。
30. おじさん()誕生日にプレゼントを買ってくれた。
31. 消防車()みんな赤いです。
32. このバス()窓()大きいです。

「ハ」と「ガ」の使い分けの問題について

33. 「あなたはスキーもスケートも上手ですね。」

「生まれ（ ）北海道ですから。」

34. 田辺さんに会ったの（ ）入学試験のとき（ ）最初だ。